東洋史

Oriental History

院生アルバイト「りぶおる」プレゼンツ

りるNavi

特定のトピックや主題に関する資料・情報を収集する手順をまとめた調べ方案内（パスファインダー）です。

りるNavi
Rissho University Library Learning Navigation

りぶおる
学生アルバイト「りぶたま(Librarianの卵)」から発展した院生アルバイトの名称。知の象徴である梟【Owl】から派生して名付けました。知識や知恵を集結させて生かしていく姿が、大学院生たちの精鋭さを表しています。

東洋史とは

日本における歴史研究および歴史教育上の一分野。日本史・西洋史と並立して学会や大学の課程で、専門分野を形成している。明治時代以前においては、漢字の一部分と見なされていた。1894（明治27）年、『支那通史』の著者として知られる那珂通世（なかみちよ）の提議により中等学校の外国史を西洋史と東洋史に分けて教授することとし、欧米の史学方法を取り込んで、近代歴史学としての東洋史が成立した。　第二次世界大戦後の東洋史学は地域研究的視点が重視され、中国中心の東洋史から脱却して、朝鮮・インドシナ・インド・中央アジア・西アジアなど各民族・文化圏の現地語に基づく専門研究が進展し、大きな成果を挙げている。（『世界大百科事典』20巻 改訂版より引用）

分類（NDC９版）

図書館の書架を調べる際は、次の分類を中心に探すとよい。

分類番号	分　野
220	アジア史・東洋史
221	朝鮮
222	中国
223	東南アジア
224	インドネシア

分類番号	分　野
225	インド
[226]	西南アジア・中東[近東]
227	西南アジア・中東[近東]
[228]	アラブ諸国
229	アジア・ロシア

辞典・事典

以下【　】内は立正大学図書館における請求記号と所在を示す。

■**『現代アジア事典』**【292/U 36　品川2F参考図書/電子資料（OPACより閲覧可）】

上原秀 [ほか]，文眞堂，2009

アジアを徹底解説した簡潔・平易な総合辞典。日本と関係の深い東アジアと南アジア地域の解説が収録されている。約2,000項目を50音順で配置。巻末の付録にはアジア諸国の主要統計が時系列順で構成されている。

■**『アジア歴史事典』全12冊 新装復刊版**【220.3/A 27/1~10，別（1），（2）　品川2F参考図書】

平凡社，1984

アジア全域とアフリカを含むアジア史の総合事典。詳細な解説で、図版や地図も収録している。配列は50音順で各項目末に参考文献が記されている。第9巻に補遺とアジア紀年表など7種の付表がある。第10巻は総索引。別冊として『アジア歴史地図』と『東洋史料集成』がある。1959年から1961年刊の新装復刊。

■**『中国文化史大事典』**【222/O-96　品川2F参考図書】　尾崎雄二郎 [ほか]，大修館書店，2013

本邦最大、最高峰と名高い中国文化事典。中国文化文学・歴史・哲学はもちろん、美術・考古・芸能・服飾・民族・科学技術などの項目を500人におよぶ専門家が選定し解説している。総索引・総画索引・ピンイン索引も収録されている。

入門書

■**『岩波講座世界歴史』（全24巻）**【209/I-95/1～24　品川B1図書】

荒川正晴 [ほか] 編，岩波書店，2021～2023

『岩波講座世界歴史』の第3シリーズ。研究の最前線を平易で明晰な内容に編集し、巻末には各巻の内容を簡単に図示。対象地域・時代の通史や概観を描く「展望」論文、大きな問題となるテーマについて掘り下げる「問題群」論文、個別的なテーマを考察する「焦点」論文から構成されている。

■『**アジア史入門 ： 日本人の常識**』【220/Sa25　品川 B1 図書】　斎藤道彦著，白帝社，2010

日本と関係の深い近現代東アジアに重点を置き「アジア史」の全体像を取り上げた入門書。古代から現代までの 4 部構成。文章も丁寧かつわかりやすく、初学者に寄り添って書かれている。まさに「入門」にうってつけの一冊である。

■『**アジアの歴史：東西交渉からみた前近代の世界像**』【220/Ma74　品川 B1 図書】

松田壽夫，岩波書店，2006

前近代アジアの世界像を俯瞰した論考書。「つまみ食い」と「切り捨て」の積み重ねだけ、と従来の歴史叙述を批判した筆者が、多様な風土・文化の特徴を見据え、交易を手掛かりとして歴史の複雑な動きを独自の手法で解き明かしている。

■『**アジアの歴史と文化**』【220/A 27/1～5,7～10　品川 B1 図書】

竺沙雅章［ほか］，同朋舎，1994～2000

中国古代から近現代までのシリーズもの。図を多く用いて当時の文化や生活を解説している。付録に年表もあるため通史を学ぶのにも最適である。

■『**アジア論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い 158**』【220/I-76　品川 B1 図書】

石川博樹 [ほか] 編著，ミネルヴァ書房，2022

「東洋史」を広義でとらえ、おおよそアフロ・ユーラシアの全体から西洋を除いた地域を対象に、これまでの研究者たちの議論、検討の末の「要点」だけを集めた入門書。各項目「背景」「論点」「探求のポイント」の 3 パートから構成。語句説明、リファレンスも充実。歴史研究好き必読の一冊。

■『**教養の中国史**』【222.01/Ts34　品川 2F 学修支援（共通）/品川 B1 図書】

津田資久，井ノ口哲也編著，ミネルヴァ書房，2018

通史、思想史、文化史、美術史について取り上げている初心者向けの中国史テキスト。始皇帝以前の先秦から現代に至るまで図版を豊富に掲載、学ぶべきポイントが整理できる一冊。

雑 誌

■『**東洋史研究**』【220.05/1　品川 B3 雑誌（新刊は 3F 開架雑誌コーナー）】　東洋史研究会

東洋史研究会の機関誌。年 4 回刊行。東洋史および西南アジア史に関する学術論文、書評が掲載されている。

■『**東洋學報**』【205/6　品川 B3 雑誌（新刊は 3F 開架雑誌コーナー）】　東洋協會調査部

東洋学専門の学術誌。伝統的な地域・時代と、アジア広域に関する研究内容がまとめられている。年 4 回刊行。論説、批評と紹介、彙報等が収載されている。

インターネット　学会サイト等

■『**東アジア人文情報学研究センター**』　http://www.kita.zinbun.kyoto-u.ac.jp/

2009 年 4 月に「漢字情報研究センター」を改組して設立された京都大学付属の東アジア人文情報学研究センターの公式ホームページ。研究センターの概要や東アジアの資料に関するデータベースが公開されている。セミナーや講習会なども定期的に行っている。

■『**アジア経済研究所**』　https://www.ide.go.jp/Japanese/

日本における開発途上国研究の 1 つの拠点であり、アジア、中東、アフリカ、ラテンアメリカ、オセアニア、東欧諸国といったすべての開発途上国の経済・政治・社会に関する様々な刊行物を公開している。8 つの定期刊行物の刊行に加え、単行書の発行も行っている。